

# コミュニケーションを円滑に進める視線の開発

## 研究概要

企業や教育機関でコミュニケーションが円滑に行えない悩みを持つ方々の治療や改善の方策として、従来は心療内科的治療やカウンセリングなどの方法が採られてきたが、社会に適応するためのコミュニケーション方法として、「視線」に着目した研究はまだ数が少ない。

視線は他者が獲得している情報を知る重要な手がかりであり、円滑な対人関係を築く要素である。本研究は、自閉症児の研究から得られた視線に関する知見を社会人や学生に応用し、コミュニケーション場面における視線の方向、持続時間、間などを比較して、その分析成果を社会適応の方法に活用することを目指すものである。

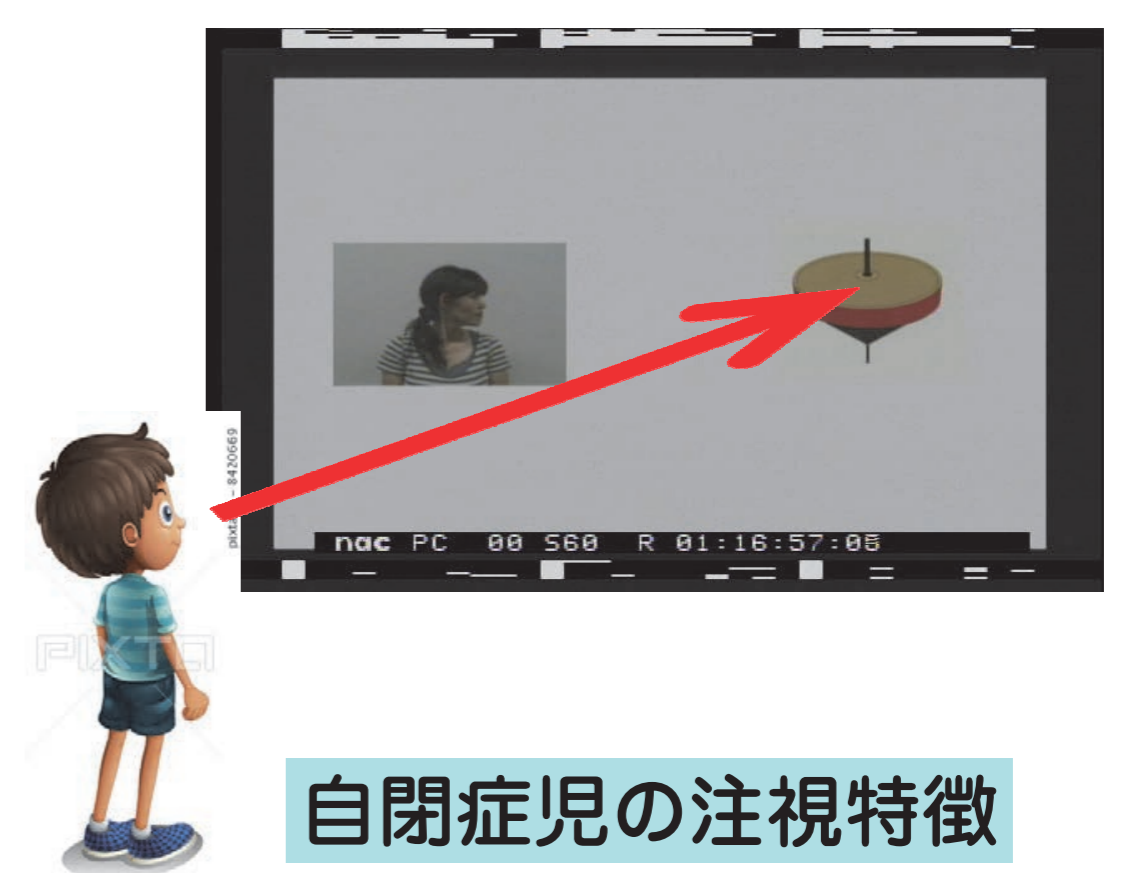
## 自閉症児の視線の研究

### 【4歳10ヵ月の定型発達児と自閉症児の注視特徴】

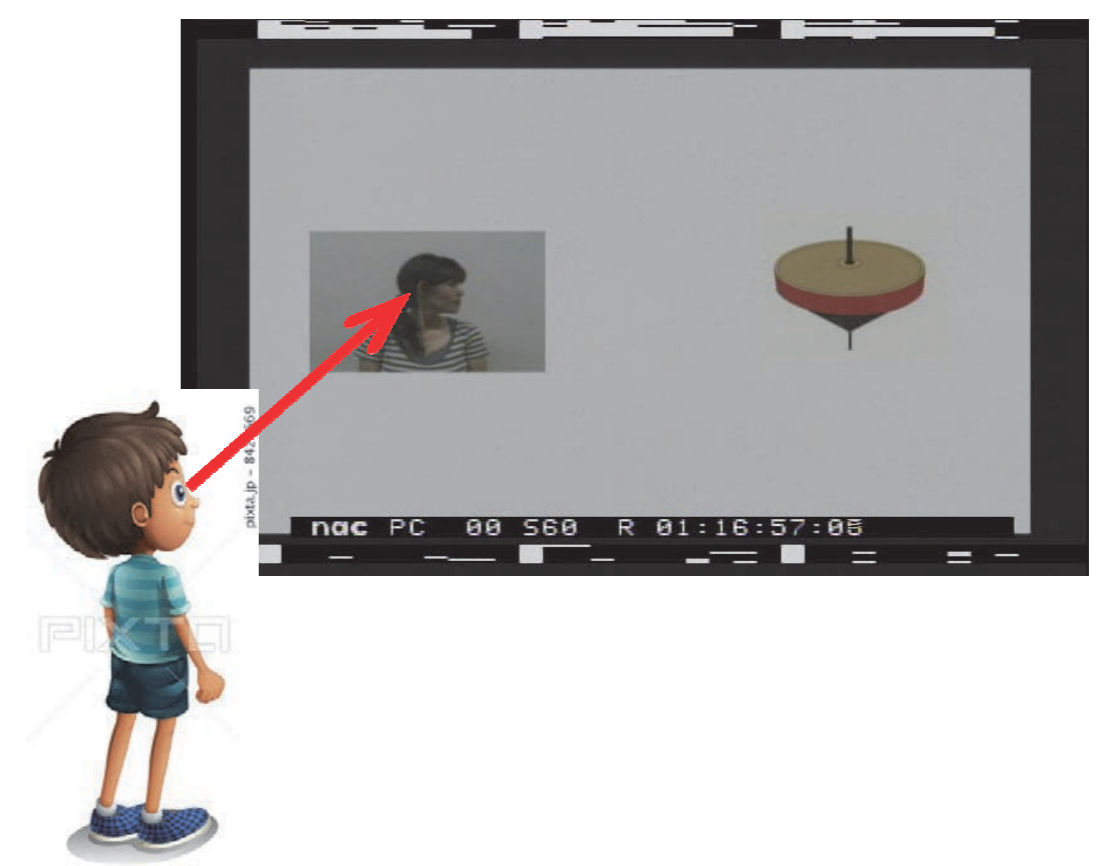
- (1) 定型発達児は①母親が正面を向いた顔、及び②母親が向いた方向にある物（右図のコマ）を長く見る。
- (2) 自閉症児は①母親が正面向きの顔、及び②母親が横向きの顔を長く見て、コマを見ない。

定型発達児は相対する人の視線を読み取り、その相手と同じ物を見る行動（**共同注意**）を示すが、自閉症児は相手の視線の先にある物を自発的に見ることができず、**共同注意**を示さない。

### 定型発達児の注視特徴



### 自閉症児の注視特徴



## 大学生の会話時における視線の研究(予備調査)

19～26歳の大学生10人を被検者として、モニターに写る相手（モデル）との会話の場面において、次の①・②を検証した。

- ①顔の中でどこ（目、鼻、口、その他の部分）を見て話すか。
- ②話す相手が笑顔か無表情、正面向きか横向きで見る場所が異なるか。

## 研究結果の分析と今後の活用に向けて

- ①話し相手（モデル）が笑顔の時と無表情の時では、被検者の視線の先や時間に差が生じると推察できる。
- ②モデルが横を向くとモデル以外を見ることが増え、話し相手の顔の向きも視線に影響する可能性が示唆された。
- ③顔以外では、モデルが左を向くと左を見る時間が増え、自閉症児の研究結果と同様に、大学生においても**共同注意**行動が認められた。

今後は被検者を増やし、視線を合わせている時間、視線を外す時間などを詳細に検討し、コミュニケーションを円滑に進めることができる要因とその分析結果を、企業や教育機関等でコミュニケーションが円滑に行えない方々の社会適応に活用していく。



保健医療学部言語聴覚学科 教授／言語聴覚士 内山千鶴子